肺炎球菌に感染すると重症化しやすい疾患は以下となっております
肺炎球菌ワクチン接種の対象者です



肺炎球菌は、高齢者の肺炎・敗血症・髄膜炎など、重い感染症を引き起こす細菌です。
おとな向け肺炎球菌ワクチンには、3種類ございます。
令和８年度より、定期接種で用いるワクチンが23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン（PPSV23=ニューモバックス）から、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20=プレベナー20）に変更になりました。

- **ニューモバックス®**：令和８年３月末まで使用：以後廃止
- **プレベナー20®**　：令和８年４月から65歳時に自治体から補助があります
- **キャップバックス®**：２回目接種や66歳以降の接種に推奨

『新しい肺炎球菌ワクチン』プレベナー20とキャップバックスを比較！

プレベナー20とキャップバックスについて、どちらが良いのか？まとめてみました。

1. どちらも予防効果が一生持続

プレベナー20とキャップバックスは、同じくPCVと呼ばれるタイプの肺炎球菌ワクチンです。
PCVの特徴は、**1回の接種でほぼ生涯免疫が持続すること**です。
肺炎球菌には90種類以上の血清型がありますが、プレベナー20は20種類、キャップバックスは21種類の型をカバーします。

2. プレベナー20とキャップバックスの基本的な違い

● **プレベナー20（PCV20）**

・国内データで、肺炎を起こす血清型の56% をカバー
・令和６年8月から日本でも使用開始
・令和８年４月から65歳時に自治体から半額の補助があります
・海外のデータが豊富で、実績が多い
・キャップバックスより、やや価格が低い

● **キャップバックス（PCV21）**

・国内データで、肺炎を起こす血清型の75% をカバー
・令和７年10月から日本で使用可能に
・プレベナー20ではカバーできない血清型を追加
・最新でカバー範囲が最も広いが、価格はやや高め

3. 日本で『キャップバックスが有利』とも言われる理由

日本で流行している肺炎球菌の血清型は年によって変わりますが、
近年はプレベナー20ではカバーしきれない血清型35Bや15Aの報告が増えてきています。
これらに対して キャップバックス は上記血清型をカバーできるため、キャップバックスの方が広範囲に効くという評価もあります。

4. 価格の違い

・プレベナー20：比較的安い
　令和８年４月から65歳時に自治体から半額の補助があります
　対象者以外は自費となります
・キャップバックス：プレベナー20より高め
　自治体の補助が出ていないため、接種は自費となります

「せっかくなら広範囲に効く最新のキャップバックスを…」
「値段を考えるとプレベナー20でも十分では？」
と考えると思います

5. 効果の違いは？　どちらも「重症化予防」が目的です

いずれも 結合型ワクチンで、免疫がつきやすく、長期の予防効果が期待できます。

・プレベナー20：実績が多く、安心して使える

・キャップバックス：カバー範囲が最も広い"最新型"

双方の優劣が決定的に示されているわけではありません。

6. 『２回目接種の場合』どちらを選べばいい？ 当院の考え

当院では、患者さんの状況に以下の様にご案内しています。

●プレベナー20 でも十分と考えられる方

・コストを抑えたい

・初めての肺炎球菌ワクチンで、まずは広く標準的な保護を得たい

・海外データが豊富なワクチンを希望する

●キャップバックス をおすすめする方

・より広い血清型カバーを希望する

・慢性呼吸器疾患（喘息・COPD など）があり、肺炎リスクを可能な限り減らしたい

・新しいワクチンを選びたい

●どっちが良いか選べないときは、キャップバックスをお勧めします。

・キャップバックスは、従来の複雑なワクチンスケジュールを不要にし、1回の接種でより広い範囲をカバーできる新しい肺炎球菌ワクチンです。

・シンプルかつ確実な予防を始めましょう。

7. まとめ・両者の違いについて

項目	プレベナー20	キャップバックス
肺炎を起こす血清型のカバー率	56%	75%
日本の流行株への対応	多くをカバーするが、 一部カバー外の型がある	より広範囲に対応 近年増えている型も含む
効果の特徴	海外データが豊富、 実績が豊富	最新型、 カバー範囲が広い
当院での価格	12,000円	14.000円
向いている人	コストを抑えたい 標準的な効果を得たい	より広い予防効果を希望 慢性呼吸器疾患がある 肺炎リスクを減らしたい

特に接種を検討して欲しい方

・66歳以上

・過去にニューモバックスを注射したことがあり5年以上経過した方

・喘息やCOPDなどがある方は、ぜひ接種をお勧めします。